

特集：分析コードの登録とメンテナンスの方法

昨年11月号の瓦版で、勘定科目や分析コードを設定するにあたって、あらかじめおさえておくべきポイントについて、また、前回1月号で、実際に勘定科目の登録とメンテナンスを行う方法についてご説明しました。今回は、引き続き、分析コードの登録とメンテナンスを行う方法についてご説明いたします。

概要

11月号の瓦版でご説明したとおり、分析コードを使用するにあたっては、まず、A分析およびT分析の2種類の分析項目について、A0～A9およびT0～T9のうち、どの項目を何の分析で使用するかを割り当てます。次に、それぞれの分析項目に設定するコードと桁数を検討します。ここまでの作業が完了したら、SunSystemsの画面で設定作業を行います。設定作業の順番と、SunSystemsの画面は次のとおりです。

- ① NL=分析項目桁数定義 (Analysis Category Lengths) ……分析コードの桁数を設定します。
- ② ND=分析項目定義 (Analysis Definitions) ……分析項目を設定します。
- ③ NC=分析コード定義 (Analysis Codes) ……分析コードを設定します。

詳細

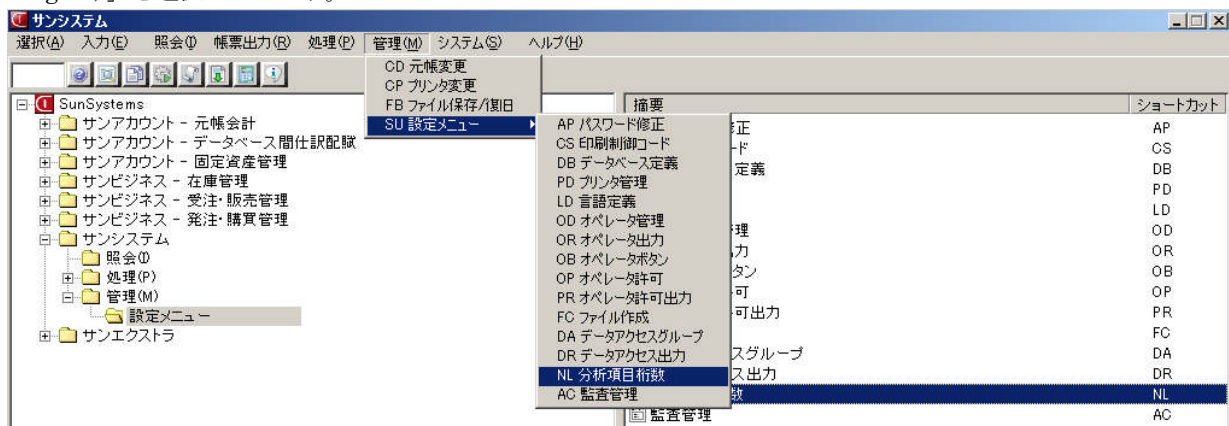
1. 分析コードの桁数を設定する方法

(1) NL=分析項目桁数定義 (Analysis Category Lengths) の画面を開きます。

「NL」の画面は、SunSystemsを起動した直後のメニュー画面から開きます。

●SunSystems4.3のサンプル画面

「管理 (Maintenance)」から「SU 設定メニュー (SU Setup Menu)」→「NL=分析項目桁数 (Analysis Category Lengths)」を選択しています。



(2) NL=分析項目桁数定義 (Analysis Category Lengths) の画面で分析コードの桁数を設定します。

「NL」の画面で、「選択 (Action)」より、「新規作成 (Create)」を選択し、各項目を設定していきます。すでに設定してある項目の桁数を増やす場合や、使用する分析項目を追加して桁数を設定する際は、「修正 (Amend)」を選択します。「NL」の画面の各項目の意味は次のとおりです。

①データベースコード (Database Code)

分析項目の桁数を設定するデータベースコードを入力（もしくはプルダウンから選択）します。

②分析項目 (Analysis Category) (A / C / F / I / M / T)

桁数を定義したい分析項目のタイプを設定します。サンアカウント (SunAccount) で使用する分析項目のタイプはA分析、T分析の2種類です。

A=勘定科目分析(Account Type Analysis)
 T=仕訳取引分析(Transaction Type Analysis)

③桁数 (Length) (0-15 / 空欄)

コードの桁数を設定します。桁数には、以下の制限があります。

- ・ A 分析および T 分析ともに、1つの分析項目の番号ごとにコード桁数は最大 15 桁
- ・ A0~A9 の合計、および T0~T9 の合計桁数がそれぞれ最大 50 桁

●NL=分析項目桁数定義 (Analysis Category Lengths) のサンプル画面

使用する分析項目にあわせて、A 分析、T 分析それぞれに桁数を設定します。



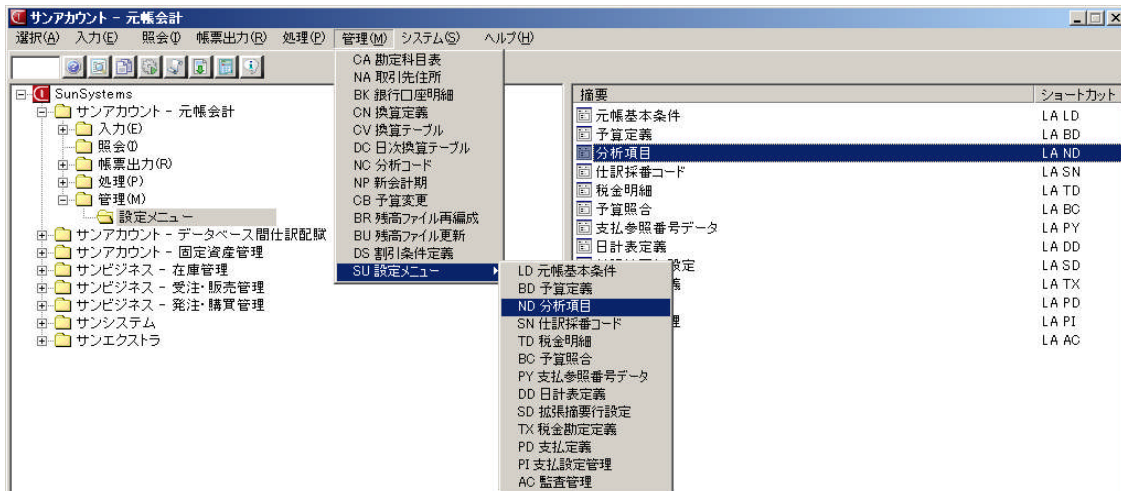
2. 分析項目を設定する方法

(1) ND=分析項目定義 (Analysis Definitions) の画面を開きます。

「ND」の画面は、「LA=元帳会計 (Ledger Accounting)」へ移動してから開きます。

●SunSystems4.3のサンプル画面

「LA」へ移動した後、「管理 (Maintenance)」から、「SU 設定メニュー (SU Setup Menu)」
 →[ND=分析項目 (Analysis Definitions)]を選択します。



(2) ND=分析項目定義 (Analysis Definitions) の画面で分析項目を設定します。

「ND」の画面で、「選択 (Action)」より、「新規作成 (Create)」を選択し、各項目を設定していきます。また、すでに設定してあるヘッダー (項目名) などを修正する場合は「修正 (Amend)」を選択します。

●ND=分析項目定義 (Analysis Definitions) のサンプル画面

分析項目「T3」を従業員コードに設定しています。

「ND」の画面の各項目の意味は次のとおりです。

①分析項目 (Analysis Category) (2 文字)

A 分析 (勘定科目分析) を定義するには、A0 から A9 を、T 分析 (仕訳取引分析) を定義するには、T0 から T9 を設定します。

②補助項目 (Subcategory) (1 文字)

※分析コードの各桁に意味付けがあり、帳票を出力する際に特定の桁を指定して集計を行う場合に使用する項目です。今回は紙面の都合上、ご説明を割愛させていただきます。

③分析項目ヘッダー (Analysis Heading) (最大 20 文字)

分析項目名を設定します。ここで設定した項目名は、A 分析の場合、「CA=勘定科目表 (Chart of Account)」の画面に出力されます。T 分析の場合、「JE=仕訳入力 (Journal Entry)」の画面に表示されます。また、「FA=財務分析表出力指示 (Financial Analysis)」から出力する分析表に、分析項目の名称として表示されます。

④短縮ヘッダー (Short Heading) (最大 5 文字)

分析項目の短縮名を入力します。

「AQ=元帳照会 (Account Inquiry)」、「AA=個別消込み (Account Allocation)」や、その他の標準帳票 (「AL=総勘定元帳出力指示 (Account Listing)」、「JL=仕訳帳出力指示 (Journal Listing)」) の表題部分に出力されます。例えば「分析項目ヘッダー」が『課 (Division)』または『部署 (Department)』の場合、短縮ヘッダーは『 Div.』や『 Dept.』などを設定します。

⑤補助項目マスク (Subcategory Mask) (2 /15 文字)

※分析コードの各桁に意味付けがあり、帳票を出力する際に桁を指定して集計を行う場合に使用する項目です。今回は紙面の都合上、ご説明を割愛させていただきます。

⑥非チェックコード (Non Validated Codes) (Y /空欄)

T 分析項目にのみ有効です。仕訳入力時に、あらかじめマスターに登録してある分析コードを選択するのではなく、任意に入力したい場合の設定です。

この設定を「Y」にすると、入力した分析コードとマスターに登録されているコードとのチェックが行われ
ないため、分析コードは何を入力してもエラーになりません。

逆に、登録してあるコードのみを入力可能とする場合（マスターチェックを行う場合）は「空白」とします。

⑦コード修正（Amend Codes）（Y / 空欄）

T 分析項目にのみ有効です。仕訳転記後の取引データで、T 分析コードを「AA=個別消込（Account Allocation）」の画面で修正できるようにする場合、「Y」を設定します。修正を許可しない場合は「空白」とします。

通常、T 分析は管理会計目的で使用されるため、T 分析を誤って入力した場合、転記後でも修正できるように「Y」を設定しますが、厳密に取引データの履歴管理をしたい場合は、ここを「空白」にして、T 分析の誤入力に関しても訂正および修正仕訳を入力する運用とします。

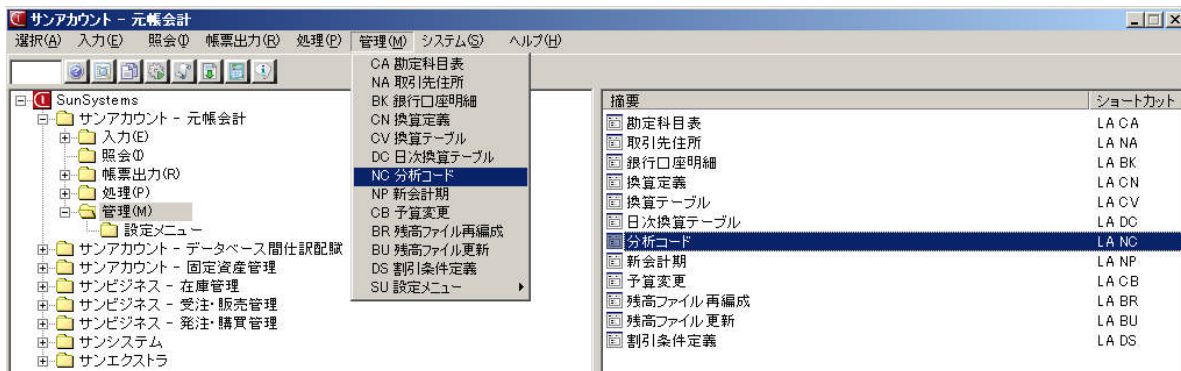
3. 分析コードを設定する方法

(1) NC=分析コード定義（Analysis Codes）の画面を開きます。

「NC」の画面も、「LA=元帳会計（Ledger Accounting）」へ移動してから開きます。

●SunSystems4.3のサンプル画面

「LA」へ移動した後、「管理（Maintenance）」から、「[NC=分析コード（Analysis Codes）]」を選択します。

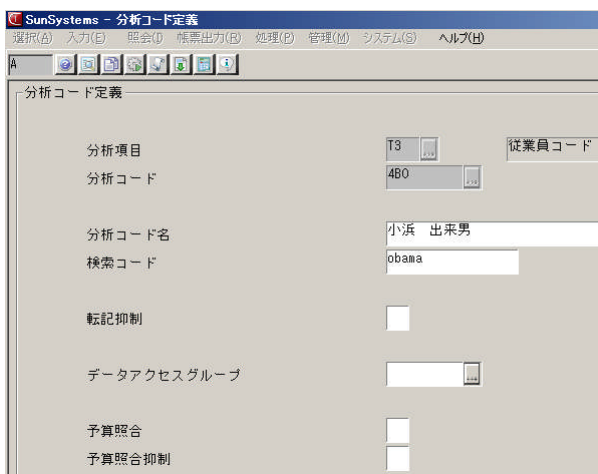


(2) NC=分析コード定義（Analysis Codes）の画面で分析コードを設定します。

「NC」の画面で、「選択（Action）」より「新規作成（Create）」を選択し、分析コードを設定していきます。

●NC=分析コード定義（Analysis Codes）のサンプル画面

分析項目『T3「従業員コード」』に、実際の従業員コードを設定しています。



「NC」の画面の各項目の意味は次のとおりです。

①分析項目 (Analysis Category) (最大2文字)

ND=分析項目定義 (Analysis Definitions) で設定した、分析項目を入力 (もしくは選択) します。
A 分析 (勘定科目分析) を定義するには、A0 から A9 を、T 分析 (仕訳取引分析) を定義するには、T0 から T9 を設定します。

②分析コード (Analysis Code) (最大15文字)

分析コードを英数字で設定します。SQL サーバーの予約文字との関係で、記号を使用することはお奨めしておりません。また、英字を使用した場合大文字と小文字は区別されます。ソートされる順序を考慮して、コードはすべて大文字に統一されることをお奨めします。

③分析コード名 (Analysis Code Name) (最大30文字)

分析コード名を英数字30文字以内、日本語15文字以内で設定します。

「FA=財務分析表出力指示 (Financial Analysis)」から分析用の帳票を出力した場合、分析コードのタイトルとして出力されます。また、「JE=仕訳入力 (Journal Entry)」画面で、分析コードを入力すると入力したコードに応じて、ここで設定したコード名が表示されます。

④検索コード (Lookup Code) (最大10文字)

「JE=仕訳入力 (Journal Entry)」の分析コードの入力欄などで、分析コード以外の項目でコード検索を行いたい場合の設定です。詳しくは、製品付属のリファレンスマニュアルをご参照ください。

⑤転記抑制 (Prohibit Posting) (Y / 空欄)

「分析項目」がTタイプの項目 (取引分析項目) の場合のみ有効です。設定したコードを使用しなくなった際に、コードを削除するのではなく、「Y」を設定します。

「Y」を設定すると、「JE=仕訳入力 (Journal Entry)」、「JI=他システムデータ読み込み (Journal Import)」において仕訳転記禁止となり、検索機能を使用した場合にも該当のコードは表示されなくなりますが、過去のデータを参照する際は、使用していた時のまま出力することができます。

⑥データアクセスグループ (Data Access Group) (最大5文字)

「分析項目」がTタイプの項目 (取引分析項目) の場合のみ有効です。

分析コード単位で、オペレータによるアクセス権を設定します。

※詳しい設定方法等については、別途、特集する予定です。

⑦予算照合 (Budget Checking) (Y / N / C / 空欄)

⑧予算照合抑制 (Budget Stop) (Y / 空欄)

サンアカウント (SunAccount) だけでは使用できません。サンビジネス (SunBusiness) の「発注・購買 (Purchase Processing)」機能と組み合わせて使用するための項目です。

(3)分析コードを設定する際の注意点や、便利な方法など

①分析項目やコードの修正について

すでに設定してある分析項目やコードのヘッダー (名前) や設定を修正する場合は「ND」や「NC」の画面で、「選択 (Action)」から「修正 (Amend)」を選択して該当の箇所を編集します。

なお、分析項目やコードを直接変更することはできないため、その場合は、設定自体を一旦「削除 (Delete)」した上で、再度設定し直す必要があります。

ただし、すでに仕訳の入力が行われている場合は、過去の仕訳データとの整合性を考慮するため、弊社サポート窓口へあらかじめご相談ください。

②「ブランク（空白）」の分析コードの設定

仕訳入力時に分析コードの入力欄を空白のまま送ることが出来るようにしたい場合は、分析コードとして「ブランク（空白）」を設定することで可能です。

ただし、空欄を設定すると、仕訳入力時に分析コードの入力欄で、「意識して空白とした」のか「誤って空白のままエンターを押してしまった」のかが分かり難いため、入力ミスを防ぐという観点からは、あまりお奨めしません。

③Excel シートから、分析コードを一括で SunSystems に転送（トランスファー）する方法

大量のコードの設定を行う場合、Excel シートから、分析コードを一括で SunSystems に転送（Transfer）する方法が便利です。

前回 1 月号で、勘定科目の登録とメンテナンスを行う方法について特集しましたが、その中で、Excel シートからの一括転送方法をまとめてあります。「NC」の画面で分析コードの転送（Transfer）を行う場合も同様に実行することができます。分析コードの設定項目と Excel シート上でのコラム（列）の対応は、以下のとおりです。

コラム(列)	項目
A	分析項目
B	分析コード
C	ANV（半角大文字）
D	検索コード
E	登録日付
F	分析コード名（半角30文字以内）
G	転記制御
H	予算照合
I	予算抑制
J	アクセスグループ
K	'（クォーテーションマーク）

※列 B には、全ての行で、「ANV」と入力する必要があります。これは、編集後のデータを SunSystems へインポートする際に、読み込むデータが分析コードであることを示す記号です。

※列 K には、全ての行で、「'」（クォーテンション）を入力します。

これは、編集後のデータを SunSystems へインポートする際に、各行の終わりを示す記号です。

1 行目入力後、全ての設定行に、「'」（クォーテンション）をコピーします。

セル上には何も表示されませんが、カーソルを対象セルに置くことにより確認することができます。

以上